



二十六聖人

日本二十六聖人殉教者



聖ガブリエル

25、京都奉行に仕えていたが、改宗して
フランシスコ会に入った。両親も信徒に。
19 歳。伊勢生まれ。

日本二十六聖人殉教者



すずき
聖パウロ鈴木

26、若くして洗礼を受けた、フランシスコ会の伝道士。
通訳として外国人司祭の宣教を助けた。
49 歳。尾張生まれ。

※本号をもって、表紙の日本二十六聖人殉教者紹介を終わります。

巻頭言：諸聖人の日・死者の日

11月、カトリック教会では「死者の月」として、追悼ミサや墓参の祈りなどを行います。二俣川教会では11月3日月曜日に「上大岡墓地」で秋の4教会合同追悼ミサと納骨式、さがみの霊園での墓参ミサが行われます。また、今年は11月2日が主日にあたるので、ミサの中でも亡くなられた方々の追悼意向が捧げられます。私たちは改めて既に天の永遠のすみかに招かれた方々のことを思い起こして祈るとともに、今、生きている私たちもいつか必ず地上の道のりを終えて、神が備えてくださっている天の国に招かれていることを改めて意識したいものであります。

亡くなった人のために祈るということは、人間のごく自然な動きから出るものです。それは、すでに亡くなってしまった人たちも含めて、自分が他のすべての人とのつながりの中に生きているという本能的な自覚によるものだと思います。

そこで、11月は1日の『諸聖人』の祭日から始まります。諸聖人とは、広い意味での聖人のことです。この世とあの世にいる、救われたすべての人のことを言います。そして、すべての人の救いの恵みは、救い主であるキリストから来ますし、キリストからしか来ません。洗礼を受けた人はこの世でキリストに結ばれ、洗礼を受けなかった人はその死の瞬間にキリストにつながれて救いの恵みを受け、聖人になるのです。しかし、このつながりは、それぞれが一本の線でキリストに結ばれてあるのではなく、キリストを中心とした無数の線ですべての人があたかも網の目のようにつながって成り立っているのです。

もし私たちが天の国に入ったとしても、私たちが大切に思っている人、私たちが知っている人の誰か一人でも天の国に来ないとすれ

ば、私たちは本当の意味での幸福ではないと思います。つまり、私たちとの関わりがあるすべての人の救いがなければ、私たちの救いはないということになります。つまり、私たちがキリストに結ばれて受ける救いの恵みは、私たちにつながれているすべての人々にも及んでゆくということです。

神のみもとにいる聖人たちは、神と人との唯一の仲介者イエス・キリストをとおして、この地上の旅を続けている私たちのために、執り成しをしてくださっています。こうして、私たちは自分でも気づかないうちに、聖人たちの執り成しによって、助けられています。聖人たちは、私たちの模範としてだけ存在しているわけではありません。諸聖人との交わりによって、私たちをキリストにより近くから従っていくようにと、キリストとより強く結び合わされるのです。そして、亡くなられた方々も、イエス・キリストの神秘体に属する人々です。教会は、その最初の時代から、死者の記念を行い、死者に尊敬を払っていました。

また、亡くなられた方にもし罪が残っていたとするならば、彼らがその罪から解かれるように、祈ってきました。このような死者のための私たちの祈りは、死者を助けることになるのです。

こうしたことから、私たちは亡くなられた方々が神の国で永遠に憩うことが出来るようにと祈ると同時に、私たちもいつかその神の国に入れるように執り成しを願うこと。そして亡くなられた方々を決して忘れることなく、思い出し続けるということが大切です。

私たちも、いつかこの世の生活に終わりを告げ、永遠の生命へと招かれています。死によって肉体は神に創られた時の状態（塵や

灰)に戻り、姿は消えてしまいましたが、肉体から離れた魂は、見えない世界で生き続けます。

死者の月にあたって、特に亡くなられた方々の魂が神の国に迎え入れられ、永遠の安らぎを得ることが出来ますように。そして今

を生きている私たちもいつかその国に迎え入れられるようにと心を合わせてお祈りしたいと思います。

マキシミリアノ・マリア・コルベ 内藤 聡



2025 年 10 月 (10 月 5 日 開催)

【検討・報告事項】

1. 2026 年司教訪問日・堅信式日程

司教訪問日・堅信式の日程候補を第一候補 11 月 8 日(日)、第二候補 11 月 22 日(日)、第三候補 10 月 18 日(日)に決めました。

2. 12 月 7 日バザー

10 月中に 12 月バザーの実行委員 10 名程度の募集を開始することになりました。

3. カリタス南三陸千葉ベース長の講演会

11 月 23 日 10 時ミサ後に東日本大震災についての講演会を開催します。復興を支援しているカリタス南三陸ベースの千葉ベース長をお招きする予定です。

【報告事項】

1. 9 月 14 日「敬老の集い」報告

結果報告があり、反省点を討議しました。案内状の書き方にもう一工夫必要だったという意見や、準備の役割分担を明確にすると良いとの意見が出ました。

2. 10 月 26 日バザー進捗報告

進捗報告がありました。当日ボランティア募集の応募状況が思わしくなく、不足が発生したら教会委員が協力することを確認しました。

3. 事務所に関する信徒意見の対応状況報告

対応状況の報告がありました。ほとんどは対応済みです。土曜日の事務所開所については現在準備中です。

4. 事業系ゴミの出し方

行事のあと教会から出るゴミを事業系ゴミとして有料収集して貰う手順の説明がありました。利用希望者は教会委員または教会事務所にお問い合わせください。

【フリーディスカッション】

テーマ「教会に関する SNS 投稿」

・個人情報、特に子どもの顔が映っている写真は SNS への投稿を控えようとの意見がありました。人によって個人情報保護に対する感覚には違いがあるので、各会で話し合って理解を深めることにしました。

・教会を知らない人が見たとき、教会やメンバーに対する悪口ととられるような記事は SNS への投稿を控えようとの意見がありました。これについても各会が討議で理解を深めることにしました。

【各会報告】

1. 典礼委員会

- ・クリスマスと年末年始のミサの時間

12月24日(水)主の降誕(夜半のミサ)19時

12月25日(木)主の降誕(日中のミサ)10時

12月28日(日)聖家族(祝)7時と10時

(31日(水)は10時週日のミサのみ、夜のミサはありません)

2026年

1月1日(木)神の母聖マリア(祭)10時

2. 教会学校

- ・10/4 教区リーダー研修会 参加者4名
(内2名は信仰教育委員会メンバー)
- ・10月バザーでミニ・ランタン作りのクラフトコーナー
- ・11/16 子供のミサで七五三のお祝予定
- ・11/30 子どもの赦しの秘跡
(予定日がバザーと重なった為日程変更)

3. キリスト教講座

- ・11/30 10時ミサにて入門式(現在6名)
- ・12/6(土)待降節黙想会 ポスターは11月より掲示します。

4. 建物管理委員会

聖堂天窓破風幕板と聖堂後方非常扉の修理を完了しました。

5. 共同墓地委員会(書面報告)

- ・9/19 納骨、生前予約申込相談3件
- ・9/21 第2回共同墓地合同委員会会議参加

6. ヨゼフ会

- ・9/14 敬老の集いでコーヒー提供、9/21 定例会、9/28 ナン神父様初ミサの集いでコーヒー提供
- ・10/12 コーヒー光、10/19 定例会、10/26 バザーで飲料提供予定

7. マリア会

- ・運営委員会 9/11 実施、10/23 予定
- ・9/21 マリア会例会
- ・パーティー係
敬老の集い 9/13 準備、9/14 パティー

ナン神父様初ミサ

9/27 準備、9/28 パティー

- ・アンナ会 9/8,22 活動、10/6,20 予定
- ・ボリビア支援グループ 9月活動なし、
10/5「のんびり日曜日」、10/30 会議
- ・ステラマリス帽子を編む会
9/19,25 活動、10/17,23 予定

8. 青年会

- ・9/28 ナン神父様の初ミサに向けて、青年会主体で教会学校の子どもたちと一緒に指スタンプを使ったナン神父様の横断幕作りを行いました。
- ・10月バザーに向けて通常聖年のテーマに合わせた企画を検討しています。

9. インターファミリー

- ・ナン神父様初ミサにインターファミリーデー/難民移住移動者の日として参加しました。参加できて光栄に思います。
- ・10/26 バザーに出店する予定です。
- ・「アルペなん民センター」に居住している方々へ応援カードを書く予定です。

10. 一粒会

一粒会献金を教会月定献金袋に統合して行きます。一粒会会員には書面でお知らせしています。

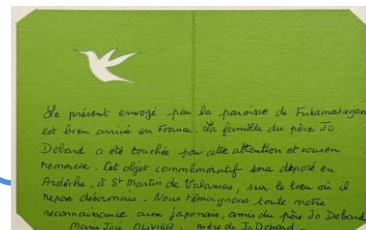
11. 地区世話人会

10/19 に世話人会を予定しています。

以上

フランスからのお便り

今年4月に帰天された、二俣川教会初代主任司祭のドバール神父様のご遺族へ、神父様の名前の入った装飾十字架を教会から贈り、そのお礼状がフランスより届きました。ロビーの掲示板に掲示中です。





9月28日、待ちに待ったナン神父様の初ミサが感謝のうちに、盛大に捧げられました。「二俣川教会のみんなと一緒に、頂いた叙階の恵みを神様に感謝して、分かち合いたい。」これが、ナン神父様がシンプルにこの初ミサに望まれたことでした。この日、ロビーや2階集会室はベトナムでの叙階式と初ミサの写真が展示され、お祝いのために特別に飾られ準備されました。カズラを身に纏ったナン神父様が、溢れる緊張感と共に、しかし堂々と行列の最後に入堂され、祭壇にあがり、振り返った時、大きな感動と神への感謝が聖堂全体を包んだことは忘れられない瞬間でした。多くの方が、感激の涙を抑えられなかったでしょう。祭壇には4人の神父様。ナン



ン神父様、神学院の林正人神父様、ナン神父様の同級生で初のベトナム人聖パウロ修道会司祭のヴー

神父様、そして内藤神父様でした。ベトナムの習慣に倣い、激励の意味も込めて林神父様がお説教をしてくださいました。ナン神父様とのエピソードや世界難民移住移動者の日を絡めたお説教はとても温かく心に残りました。共同祈願は、ベトナムの出身教会での初ミサで捧げた祈りと同じものが日本語と英語で捧げられ、奉納行列は、インターファミリーグループの皆さんに任せられ、ホスチアとぶどう酒、ナン神父様を送り出してくださいましたベトナムの修道会・出身教会・ご家族への

感謝の花、霊的花束、みんなで作った手作り福音書が捧げられました。民族衣装を身に纏



った外国籍の信者の皆さんが、行列に彩りを添えてくださいました。ナン神父様がひとつひとつ丁寧に唱え、捧げる祈りに招かれて私たちもミサを味わい、その感謝の祭儀を心から共に捧げることが出来ました。そして、それぞれの場所で司牧されている4人の若手神父様たちが集われ、共に囲む祭壇は希望が満ち溢れるもので、その食卓を共にする喜びと感謝の気持ちで一杯でした。感謝の祭儀の終わりには、特別に荘厳な祝福をもって派遣されました。閉祭の聖歌は、みんなで練習をし



た「ゆけ 地の果てまで」を日本語とベトナム語で歌いました。この聖歌は、ベトナムで

の初ミサの閉祭の聖歌として、ナン神父様がベトナム語に翻訳しベトナムの信者の皆さんで歌ってくださったもので、お返しとして今度は私たちがベトナム語を練習しました。退堂し…派遣されていくナン神父様の背中を押す、素敵なプレゼントになったかなと思います。ナン神父様も「聖堂をでる少し前にベトナム語が聞こえてきて、驚き感動した!」と話してくださいました。ミサを終え、緊張から解き放たれたナン神父様は大きな笑顔で祭壇に戻られ、お祝いセレモニーが始まりました。1本ずつのお花を持った子どもたちが次々と入堂し、ナン神父様にプレゼント。あっという間に、色とりどりの大きな花束となりました。続き



て、侍者会からの色紙、皆さんからの霊的花束、そして手作り福音書が



贈呈されました。
一度ミサで奉納
し、神様に捧げた
福音書なので、ナ
ン神父様も既に福

音書のことはご存知でしたが…まずは中をペ
ラペラ見て、そして…え！手書き!?!と、気
づいた瞬間のナン神父様のお顔は文字通り
“目が点”となっていました。驚きと感激で言
葉が見つからなくなってしまわれましたが、
大変喜んでくださいました。続いての、教会
委員長の祝辞では、ベトナムにて出身教会の
歴史に触れ、小さな教会になっても頑張っ
ていく勇気と希望をいただいたと話されてい
ました。続いて放映された「お祝いムービー」
は、ナン神父様の2019年からの二俣川での
様子や、ベトナムでの叙階式・初ミサの様
子が盛り込まれ、幼い頃のナン神父様の可
愛らしい写真には、感嘆の声があがりました。
これからナン神父様のために祈り、共に歩
む約束の内容でもありました。内藤神父様か
ら、お祝いと励ましの言葉をいただき、最
後にナン神父様からのお言葉をいただきました。
ナン神父様が日本に帰国されて、すぐに共
同司式された週日ミサのみことば「働け、わ
たしはお前たちと共にいると万軍の主は言
われる」(ハガイ2・4)を引用され、歩み出
す決意を新たにされていました。新司祭の
按手には特別な恵みがあると



言われていま
す。この日集
った全員が、ナ
ン神父様から
按手をいただき
ました。長い

長い行列となり
ましたが、感謝
のうちに皆がナ
ン神父様を通
してお恵みを
いただくことが
出来ました。セ
レモニーの締め
くくりには、ナ
ン神父様が好
きな「イエス様
がいちばん」を



合唱。インター
ファミリーの
皆さんが、それ
ぞれの言葉で
「ナン神父様、
どこにいても
私たちの家族
です！」とのメ
ッセージ

を伝え、青年
たちが皆さん
に声掛けして
作った似顔
絵の横断幕を
掲げて、ナン
神父様を激励
しました。2階

での祝賀パ
ーティーは、
パーティー
係の皆さん
が腕を振る
ってください
ました。そし
てインター
ファミリー
の皆さんも
持ち寄って
くださった
お料理も加
わって、皆
さん大喜び
でした。乾
杯は、ナン
神父様の同
級生のヴー
神父様。サ
ブライズパ
フォーマンス
で、フィリ
ピンの皆
さんやナイ
ジェリアの
皆さんが
ダンスで盛
り上げてく
ださりと
ても賑わ
いました。



そしてイン
ターファミ
リーの皆
さんもち
寄ってく
ださった
お料理
も加わ
って、皆
さん大
喜びで
した。乾
杯は、
ナン
神父
様の
同級
生の
ヴー
神父
様。サ
ブ
ライ
ズパ
フォー
マン
スで、
フィ
リピ
ンの
皆
さん
やナ
イ
ジ
ェ
リ
ア
の
皆
さん
が
ダン
スで
盛
り
上
げ
て
く
だ
さ
り
と
も
賑
わ
い
ま
し
た。



この日のた
めに準備
してきた
共同体
の皆様、
様々な
形で助
け合っ
てきた
皆様と
互いに
感謝し
合いた
いと思
います。
神に感
謝！こ
れから
もナン
神父様
のため
に、そ
して、
私たち
のため
に働い
てくだ
さる神
父様方
のため
に、そ
して司
祭召命
のため
にも共
にお祈
りし、
歩ん
でまい
りまし
ょう。

司祭叙階の恵みを受けて

— 神によって新たにされて —

ペトロ・ホアン ドウック ナン、M.F.

皆さん、日頃から大変お世話になっております。ご存知のように、私は去る 8 月 4 日に信仰の宣教修道会・ベトナム管区本部にて同修道会の 14 人の兄弟と共に司祭叙階の恵みをいただきました。当日の叙階式に大勢の方々が参加してくださいました。そして色々なところから祈ったり、お祝いしたりしてくださった方々も多くいました。感謝と感激でいっぱいでした。二俣川教会では「司祭叙階特集号」として『二十六聖人』の 9 月号と 10 月号が発行されたと思いますが、ベトナムまで足を運んで叙階式に参列してくださった方々が感想や叙階式の様子を生き生きとした文書をもって一つ残らず伝えてくださいました。心から感謝いたします。ベトナムに行けなかった方々は動画配信や教会だよりを通して心を一つにして祈ってくださったことに感謝いたします。こういったかたちで、ベトナムで行われた叙階式の様子と雰囲気は少しでも皆さんに伝わったと思います。ですから、叙階式についてもう私が述べなくてもいいと思いますが、少しだけ感想を伝えたいと思います。

叙階式が行われる一週間前、神のみ前に弱さ、あやまちや罪だらけの自分は、この恵みをいただくのに相応しいのかと祈りの中でずっと思い巡らしていました。もちろん、神のみ前に立つに相応しい人間はいません。もし立てるとしたら、それは神の慈しみによるものだと思います。このような弱いものを通して神はご自分の人間に対する愛と慈しみと力を表されるだろうと思って、喜んで司祭叙階を受ける準備をしました。そして当日、私は何が起こっていたか分からないほど、とっ

てもとっても緊張を抱きながらこの司祭叙階という大きなお恵みをいただきました。叙階式の中に「連願」という儀がありました。その時、受階者が地面にひれ伏している間、天からのたまものが豊かに与えられますように天上のものも、地上のものもと、皆が祈ってくださいました。非常に感激しました。地面にひれ伏して祈る時、自分が罪人で弱さを抱えている人間であることを認め、神のいつくしみを願い求めます。そしてまたそこから立ち上がる時、古い人を脱ぎ捨て、イエスを身にまとして新しいものになっていくのだと教わりましたが、まさに私自身もその場でそれを実感しました。ここで聖パウロのことばを思い出します。「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」（ガラテヤ 2・20）キリストの祭司職(職位的祭司職)に与った司祭として、そのように生き、その役務を果たしていかなければなりません。もちろん、司祭だけではなく、洗礼の恵みによってキリストの祭司職(共通祭司職)に与った全てのキリスト者の皆さんも「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛そう。」と、いつも呼び掛けられていると思います。

司祭叙階にあたり、教会のよい習慣に従って、受階者のみんながこれから祭司職を果たすための自分の生き方、在り方の軸とすることばを選びます。聖書から選んだ司祭が多くいますが、わたしはミサ典礼書の奉献文から一つのことばを選びました。それは「キリストによってキリストと共にキリストのうちに」です。このことばは実は、修練期間のあ

る日、ミサに与る最中にあらためて出会い、ずっと心の中で響いていました。また、このことばは、私の修道会の誓願宣言の最初の言葉でもあります。これからキリスト者として、修道者として、また、司祭になったのですから司祭として「キリストによってキリストと共にキリストのうちに」生きようと思えます。そのように考え、司祭叙階の準備の時に、このことばを選んだのです。本当に、この聖なる祭司職という「とうとい大切なつとめ」を自分の力で果たすことはできません。神からの助けなしには、絶対に果たせないと思います。ですから、これから祭司職を果

たしていく私はいつもいつも、神の助けと力を祈り求めながら、そしてイエス・キリストが主役であることを忘れないように。また、いつもキリストとの親密なかかわりの中に生き、この奉仕職を生きたいと思っています。

私たちはそれぞれに応じて恵みを与られますが、聖職者であっても、信徒であっても同じキリストの、唯一の祭司職に与るものとして主にしっかりと結ばれ、「キリストによってキリスト共にキリストのうちに」あって、豊かな信仰生活を共に歩んでいきましょう。



祝 敬老の日

9月14日、日本における「祖父母と高齢者のための世界祈願日」に、77歳以上の皆さんにご案内して、敬老をお祝いが行われました。特別にお祝いさせていただいた喜寿と米寿の皆様には神父様からの祝福と教会からのプレゼントを贈呈しました。今年挨拶してくださったのは、喜寿を迎えられたマリア・ローザ A. M. さん。今年献堂60周年を迎えた二俣川教会と同じく、60年前に受けた洗礼を思い起こし、老いを実感し向き合いながら、いつか祈ることしかできない時が来ても、神様はいつも見守ってくださるのだから感謝しながらゆっくり歩んでいきたいと話されました。そして、今年の夏1番の大きな出来事であった、ナン神父様のベトナムでの司祭叙階式報告ムービー(ナン神父様からのビデオメッセージ付き)が放映され、皆さんワクワクしながらご覧になっていました。まるで信仰告白のようで、愛と祈りのうちに周りにいる兄弟姉妹と共に、希望である神の道を歩みましょう！という招きを味わいながら、通常聖年の公式聖歌、「希望の巡礼者」を皆さんで歌いました。ミサ後の2階集会室での「歓談の場」も大いに盛り上がりました。大勢が参加され、丁寧にご用意いただいたサンドウィッチをいただきながら、久しぶりの再会も喜び合い、分かち合いました。皆様の健やかで恵み豊かな日々をお祈り申し上げます！



聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中で見出す助けとなり

わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年
特集
Vol.10

23 まさしく免償は、
神のあわれみがいに
無限であるかを分か
らせてくれます。古

代において、「あわれ (misericordia)」
ということばは、「免償 (indulgentia)」
ということばと互換性のあるものだったの
は偶然ではありません。なぜなら、まさに
「免償」は、限界を知らない神のゆるしの
十全さを表そうとするものだからです。

ゆるしの秘跡は、神がわたしたちの罪を
消し去ってくださることを確約していま
す。慰めの力に満ちた詩編のことばが思い
起こされます。「主はお前の罪をことごと
くゆるし、病をすべていやし、いのちを墓
からあがない出してくださる。いつくしみ
とあわれみの冠を授けてくださる。……主
はあわれみ深く、恵みに富み、忍耐強く、
いつくしみは大きい。……主はわたしたち
を罪に应じてあしらわれることなく、わた
したちの悪に従って報いられることもな
い。天が地を超えて高いように、いつくし
みは主をおそれる人を超えて大きい。東が
西から遠いほど、わたしたちの背きの罪を
遠ざけてくださる」(詩編 103・3—4、
8、10—12)。秘跡による和解は、霊的機
会であるだけでなく、それぞれの信仰の歩
みにおける、決定的で本質的、かつ不可欠
な一歩です。そこにおいて、主はわたした
ちの罪を滅ぼし、わたしたちの心をいや
し、わたしたちを起き上がらせて抱きし

め、その優しくいつくしみに満ちたみ顔を
示してくださるのです。主によって和解させ
いただき(二コリント 5・20 参照)、その
ゆるしを深く味わうことこそ、神を知るいち
ばんの方法です。告白を放棄せずに、いやし
と喜びの秘跡のすばらしさ、罪のゆるしのす
ばらしさを再発見しましょう。

しかしながら、個人的経験で知っているよ
うに、罪は「痕跡を残し」、結果を伴いま
す。罪は、犯した悪の結果として外に影響を
与えるだけでなく、内にも影響を及ぼしま
す。というのも「小罪も含めたすべての罪は
被造物へのよこしまな愛着を起こさせます。
人はこの愛着から、この世であるいは死後、
清められなければなりません。死後の清めの
状態は煉獄と呼ばれます(18)」。

したがって、悪に引き寄せられる弱いわたしたちの人間性には、「罪の残滓」がとどまるのです。これらは免償によって、どんな場合もキリストの恵みのおかげで、取り除かれます。聖パウロ六世教皇が書いておられるように、キリストは「わたしたちの免償(19)」だからです。聖年の免償を得て、それを有効なものとするための諸規定を、教皇庁内赦院は公布します。

このようにゆるしで満たされた体験を経ると、心と思いは、ゆるすことへと必ず向かいます。ゆるすことは、過去を変えることではありませんし、起きてしまったことは修正できません。ですが、ゆるすことは未来を変え、恨みも憎悪も復讐心ももたない、違う生

き方を可能にします。ゆるすことで未来が照らされるなら、たとえ涙に曇ったままであっても、違った目で、より穏やかな目で、過去を見つめられるようになります。

前回の特別聖年のときに、わたしは、重大な使命を果たし続ける、いつくしみの宣教者を立てました。次の聖年でも、彼らにはその任務を遂行してほしいのです。罪を犯した人が、開かれた心と悔い改めへの思いをもって自分のもとを訪れたなら、そのたびに希望を取り戻させ、ゆるしを与えるという任務です。彼らには和解の道具であり続け、御父のあわれみからもたらされる

心からの希望をもって未来を見る、助けであってほしいのです。司教たちには、とくに希望が厳しい試練にさらされる場所、たとえば刑務所や病院、人間の尊厳が踏みにじられている場所へ、またきわめて貧しい状況のもとへ、すさんだ環境下へと彼らを派遣し、その尊い奉仕を生かしてくださるようせつに願っています。だれ一人として、神のゆるしと慰めを受ける可能性を奪われることがないためにです。

18. 『カトリック教会のカテキズム』 1472。

19. 教皇パウロ六世、聖年前年の使徒的書簡『アポストロールム・リミナ（1974年5月23日）』II（Apostolorum limina）



《 今月の意向 》 ■ 11 月

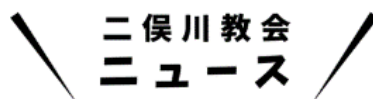
教皇の意向： 自殺防止

自殺の誘惑にさらされている人々が、地域社会での必要な支援やケアを受け、愛に触れて、人生の美しさに心を開くことができますように。

日本の教会の意向： 日本と韓国の教会

隣国である日本と韓国の教会が、福音宣教のために助け合い、未来に向けてよりよい協力関係を築いていくことができますように。

（カトリック中央協議会ウェブサイトより）



- 10月13日(月・祝)、横浜教区一粒会大会が函嶺白百合学園で行われ、二俣川教会からはバスや電車で20名以上が参加しました。次号でレポートします。
- 今年も年末福祉献金のためのバザーが10月26日、『ルーチェ・光のバザー』と題して行われました。生憎の雨で人出が少ない残念さはありませんでしたが、古着のチャリティフェア、マリア会やインターファミリーグループの食事販売、外部の福祉団体の出店、子どもたちはクラフトコーナーやルーチェカードを探すゲームに参加するなど、それぞれに新たな出会いとコミュニケーションを楽しみながら参加されていました。クリスマスバザーは12月7日を予定しています♪

【11 月の予定】

- ・ 11 月 2 日 9 時 教会学校 (聖劇配役)
- ・ 11 月 9 日 9 時 侍者会
- ・ 11 月 16 日 9 時 教会学校 (ゆるしの秘跡準備) 子どものミサ 七五三のお祝い
- ・ 11 月 30 日 9 時 ゆるしの秘跡

● 11 月の予定

11 月は日曜日が 5 回ありますね。11 月は第1、第3日曜日にクラス、第5日曜日にゆるしの秘跡がありますのでご注意ください！また 11 月 16 日はミサの中で七五三のお祝いがございます。男の子、女の子問わず、7、5、3 歳の子どもが対象となります。クリスマスの聖劇の配役決めやゆるしの秘跡もあります。クリスマスの準備がはじ



● 10 月のクラスの様子

暑い夏がようやく終わり、秋が感じられる日が多くなりましたね。運動会シーズンでしたが、10 月も多くの子どもたちが元気に教会学校へ集まりました！

10 月はロザリオの月にちなんで、教会学校でもロザリオのお勉強をしました。幼児クラスでは自分の好きな色のシールを貼ったり、絵を描いたり、折り紙を使ってマイロザリオを作りました。自分だけのロザリオを使ってたくさんお祈りできるといいね😊



小学生クラスではロザリオがなぜ生まれたのか、ロザリオを使ってどのようにお祈りするかも勉強しました。クラスの最後にはみんなでロザリオの祈りを 1 連捧げました。世界ではたくさんの悲しいことがたくさん起こっていますが、わたしたちは、フィリピンで発生した地震や日本を襲った台風で被害にあわれた方など、災害の被害を受けて困っている人、弱っている人のために祈りを捧げました。小さな祈りを集めてマリアさまのバラのかんむりを作る気持ちで、心を一つにして祈りを捧げました。





－大根大好き！－

肌寒くなってくるこの時期は、しっかりと出汁の染みた大根にゆず味噌を乗せて食べたいと思いますが、今回は副菜？箸休め？常備菜になる漬物を、ご紹介したいと思います。初めにご紹介するのは、マリア会会員の大根レシピです。

お漬物「Nさんの大根漬け」

<材料>

大根 1 本、合わせ酢(酢 60cc、砂糖 167g、塩 30g)

※大根が、半本分でしたら材料も半分にして下さい。

<作り方>

大根は 2mm の輪切りにし、煮立てた合わせ酢を熱いうちに大根にかけ重石をのせる。水が上がってきたら重石を外す。

※大根 1 本分なら、重石は密封袋に水を入れたものを入れたお皿やボールで代用ができます。

出来上がったらトッピングとして柚子の細切りを乗せたり、唐辛子の輪切りを乗せて味の変化も楽しめます。

もう一つ「くらこん塩こんぶ」の HP で疲れて何にもしたくない時のレシピを見つけました。

<材料>

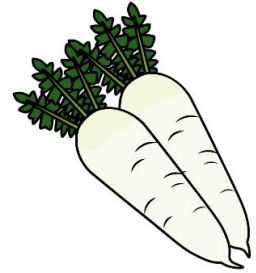
大根半分、塩昆布 25g、蓋つき容器

※HP では 2 人分の材料で掲載されていましたが、あまりに少なく 1 人分くらいでしたので、3～4 人分の分量とします。食べきれなくても冷蔵庫に入れておけば OK です。

<作り方>

大根は 2mm の銀杏切りにし、密閉容器に塩昆布とともに入れる。フタをし、50 回振る。

※密封容器を振る作業も楽しいです。すぐに食べるとシャキシャキの歯ざわり、30 分ほどおくとポリポリ食感になります。



“食欲の秋”のお供にどうぞお試しください。

マリア会 K. M.

【編集後記】

10 月の中頃になっても暑い！という異常に長い夏でしたが、秋が急にやってきたようです。暑いからと先送りになっていたことをしようにも、気づいたら 11 月の死者の月がもう近づいています。フランシスコ教皇様が帰天された今年、私の身の回りからも親しい人たちが駆け足で天に召されていきました。『二十六聖人』2 月号で二宮教会の取り組みをご紹介しましたが、その文章を寄せてくれた友人が亡くなっていたことをつい数日前に知り、何とも言えない気持ちになりました。天国でずっと待っていてくれるはずと自分を必死に奮い立たせる日々を今は過ごしています。天の国におられる方々に栄光と安らぎを!!

(F. N. 記)